



∞関屋っ子の可能性は無限大∞

令和8年1月23日号

関屋小だより

校長 佐藤 幸代

健康で明るい子 進んで行動できる子 よく考える子

関屋っ子の可能性は無限大！



関屋小学校の今年のスローガン「関屋っ子の可能性は無限大∞」の掲示物を、上村先生が、すばらしい筆文字で書いてくださいました。正面玄関（金魚の上）に飾っていますので、ぜひ見てくださいね。

関屋っ子一人一人が、すばらしい可能性を持っています。その可能性を伸ばすために大事なことは、言葉を変えること。「無理。」とか「できません。」と言いたくなる場面で「やってみます。」「できるかも。」と言ってみる。そうすると脳は、できる方法を探し出すのだそうです。脳の仕組みはおもしろいですね。自分の可能性に限界を作らずいろんなことにチャレンジしていこう！

よい心を広げる人になろう

休み時間に校舎を歩いていたら、4年生の1人が、トイレのスリッパを丁寧に並べてくれていてとてもうれしい気持ちになりました。きれいに並んでいるスリッパは気持ちがいいですが、ついつい急いでいてそろえるのを忘れる人が多いですね。先生たちからそろえて脱ぐように何度も指導されていてもなかなかそろわず、気になっていました。でも1人でも2人でもそろえてくれる人が増えていたら、その「よい心」が広がっていくと思います。よい心、よい行いを広げる人になってほしいと思います。

ゆりやんレトリバアさんのお話

全校朝会で、奈良県吉野町出身の、ゆりやんレトリバアさんのお話をしました。小学生の時に吉本新喜劇を見て、お笑い芸人になりたいという夢が芽生えて、今は映画監督になるという夢まで叶えることができた、ゆりやんさん。ゆりやんさんは、「映画監督になりたい」と夢を口に出したことがきっかけで、プロデューサーさんと出会い、映画を作ることができたんだそうです。中学校時代につらい時期があったとき、応援してくれた先生がいたこともお話をしました。映画は、自分の失恋をもとにしたお話。「わたしを振ってくれた人たちありがとう。おかげで映画ができました。」という言葉が映画の宣伝チラシにも書かれていました。このことからみんなに伝えたいことは3つあります。

「誰かの支えになれる人になろう」「夢は言葉に出そう」「つらいことも、とらえ方次第」

奈良県出身のゆりやんさん、これからも活躍を応援したいですね！

ブックトークで本に親しむ

先日、香芝市立図書館から図書館司書の先生方が関屋小学校にきてくださいり、ブックトークをしてくれました。色々な本を楽しく紹介してくれて、「本を読みたいな。」という気持ちがムクムクとわきあがってきたのではないかでしょうか。私が気に入ったのは「やきいもドン」という絵本です。この絵本を読んだらまちがいなく、焼き芋が食べたくなります。近々先生たちのおすすめの本を図書室で紹介する企画を図書委員会がしていますので楽しみに！

「SNSより読書だね。読書のあとは9時間睡眠。」

